



ARAUCO®

2024年10月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

チリは春を迎えましたが、今年は気温が上がらず、まだ雨の日も多く、例年の爽やかな春シーズンはまだ先の様です。

銅価格は4月から世界的に銅の需要が増えて5月に5.0ドルを超えて過去最高値になり、6月以降は4.3-4.5ドル台で落ち着いております。

為替はドルに対して900-950ペソで小幅な変動になっており、最近では920-930ペソあたりで落ち着いております。

チリ国内の新車販売、不動産市況は厳しく、国民所得がパンデミックを終えても上昇していません。鉱業、農業、林業の輸出は堅調ですが、国民生活には反映されておらず、ポリチック大統領に対する支持率も低迷を続けております。

2. 世界市況

中近東市場は引き続き製材の在庫不足が続いており、ブラジルや欧州からの製材数量が増えません。今年のチリ製材販売は昨年より15%近く伸びております。

韓国市場は中国向け輸出梱包材が伸び悩んでおりますが、欧州材の輸入減、NZ丸太、製材からチリ材へ転換により、昨年並みの販売数量を確保しております。

日本は昨年より約3.5%の販売数量減少で、8月まで続いた歴史的な円安ドル高傾向、輸出梱包材の落ち込み、国産杉製材との競合により、チリ製材の販売は厳しい市況が続いております。

今年の中国向け乾燥材（家具、玩具向け）の販売は、昨年より23%近くは減少になりそうなので5年前と比べると55%近い減少になります。アラウコが中国向けメインの製材工場を閉鎖した理由も生産数量の回復が厳しいこともありました。

NZ国内のエネルギーコストが2020年から5倍以上を上げており、パルプ工場の閉鎖や製材工場の閉鎖も出始めております。また森林オーナーは丸太価格が今後も低迷するようであれば、森林伐採を抑えて丸太の供給を減らす方針も検討されております。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2024年7月配船(3番船)は予定通り9月中旬までに各地の入港を終えました。

9月配船(4番船)は9月29日に現地を出港しており、川崎港へ11月3日に入港予定となります。その後、名古屋、大坂へ寄港します。

11月配船(5番船)は11月下旬配船予定の中近東向けバルク船を優先することになり、日本向けは12月前半の配船スケジュールへ変更になりました、日本入港は来年1月後半からになりそうです。来年は2025年2月配船より、60日間隔で12月配船まで年間6回のバルク配船スケジュールを予定しております。

b) 梱包市況

梱包需要は引き続き低調で推移しています。中国向け輸出の回復はなく、また東南アジア向け輸出も静かです。10月以降に期待されている秋需要の気配もまだありません。パレット材需要の回復もない市況下で、チリ材、NZ材に比べて価格競争力のある国産杉製材業者でもパレット材の生産数量が落ちている市況です。

7月に入荷した2番船と9月に入荷した3番船の為替水準は155円あたりが多く、各社は最低2000円の値上げを8月より実施しています。しかし、8月より為替相場が円高ドル安傾向の140-145円レンジで、値上げの受け入れに難色をするユーザーも多く、関西を中心に製材価格の値上げ浸透には時間がかかっております。

12月配船(5番船)の交渉は10月前半になりますが、チリシッパーは今年の日本向け収益がアジア各国と比較して最低となっております。円安ドル高傾向がピークを越えた為替相場が続けば、今後は輸入コストが下がることになりそうです。

日本向け収益を改善する為、本船の製材価格は交渉時の為替相場にもよりますが、製材価格の値上げを検討しております。

c) アラウコ乾燥材(KD)

アラウコはヌエバルディア(12番工場)をメンテナンスする為、11月より12月まで約2ヶ月間、生産数量が制限されます。

日本向けの厚物KD材販売は数量が限られておりますので大きな影響はない見込みです。

アルゼンチンタエダパイン材の販売は長物のみですが拡販中で、円高ドル安傾向が続けば、今後はコストが下がり販売を伸ばしていきたい方針です。

仕組み材の機械導入時期はまだ決まっておりません。

以上